

特別展

アニメーション美術の創造者

# 新・山本二三展

— 天空の城ラピュタ、火垂るの墓、  
もののけ姫、時をかける少女 —

会期：開催中 ～ 2024. 1.21 [日]

休館日：月曜日(祝日の1月8日は開館)、年末年始(12月28日～1月1日)

料金：一般 1,400円(1,200円)、大学生 1,200円(1,000円)

※( )内は平日料金。

※下関市在住の65歳以上の方は半額免除。

※18歳以下、および高等学校、中等教育学校、特別支援学校に在学の生徒は、観覧料が免除されます。

※観覧料免除にはいずれも公的証明書が必要です。

主催：下関市立美術館 読売新聞社 KRY山口放送

協力：絵映舎 日東電工

企画：神戸新聞社

協賛：やまぐち文化プログラム ポートレース下関  
(公財) 下関市文化振興財団

去る8月19日に亡くなられたアニメーション美術監督の山本二三は、1953年、五島列島の福江島（現・長崎県五島市）に生まれました。山本は、中学卒業後に離島し、岐阜県の工業高校で建築と絵画を学んだ後、東京の美術系専門学校を経てアニメーション業界に入ります。24歳の若さでテレビアニメ「未来少年コナン」の美術監督に抜擢されて以降、スタジオジブリの映画などで数多くの名作アニメーションに携わり、独特の詩情あふれる背景世界を生みだしてきました。

本展では、山本がこれまでに手がけてきた初期から最新作までの背景画のほか、制作の過程で生み出される未公開のイメージボード、制作用具など約220点を一堂に展覧。すぐれた技術とゆたかな感性に裏打ちされたアニメーション美術の世界をご紹介します。

## 展覧会構成

### 第1章 冒険の舞台

山本が弱冠24歳で初の美術監督をつとめた「未来少年コナン」や、飛行石と空に浮かぶ伝説の島をめぐる「天空の城ラピュタ」など、主人公がめぐる冒険の舞台となる世界をご覧いただきます。



左: 天空の城ラピュタ《荒廃したラピュタ》1986年 ©1986 Studio Ghibli

右: 世界樹の迷宮IV 伝承の巨神《街からのアプローチ》2012年 © ATLUS ©SEGA All rights reserved.

### 第2章 そこにある暮らし

大坂の下町を舞台にした「じゃりん子チエ」や戦争がテーマとなった「火垂るの墓」、タイムリープの能力をもつ少女の物語「時をかける少女」といった、暮らしの息遣いを感じさせる街や家屋等の表現をご紹介します。



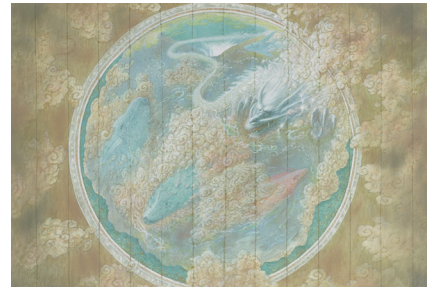
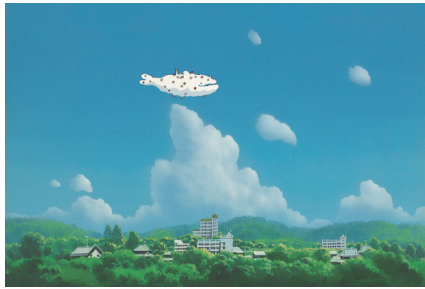
左: 火垂るの墓《裏通り》1988年 ©野坂昭如／新潮社, 1988

右: 時をかける少女《踏切》2006年 ©「時をかける少女」製作委員会2006



## 第3章 雲は語る

山本の代名詞ともなった「二三雲」の表現をご覧ください。季節や天候によって、さまざまな形に姿を変える雲。その一瞬をとらえた魅力的な雲の表現をお楽しみいただきます。

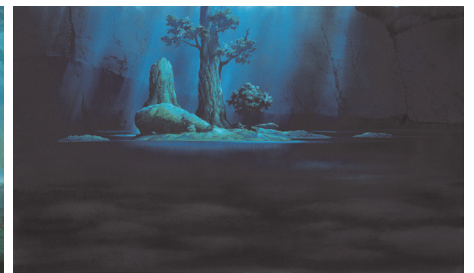


左:くじらぐも《くじらぐもと散歩》1992年 ©RIEKO NAKAGAWA／Mitsumura Educational Co., Ltd

右:天気の子《気象神社絵画・天井画》2019年 ©2019「天気の子」製作委員会

## 第4章 森の命

自然と人間の関係がテーマである「もののけ姫」。山本は「シシ神の森」の世界を表現するために、鹿児島島の屋久島へ取材に出かけ、古代の神々がすまうような、観る者に迫りくる空間を表しました。「もののけ姫」をはじめとした、森の生命を感じさせる瑞々しい描写をご堪能ください。



左:もののけ姫《シシ神の森(5)》1997年 ©1997 Studio Ghibli・ND

右:もののけ姫《シシ神の島(3)》1997年 ©1997 Studio Ghibli・ND

## 第5章 忘れがたき故郷

山本の出身地である五島列島を描いた「五島百景」は、2010年からライフワークとしてはじまり、約10年をかけて完成しました。アニメーションの背景画を約50年描いてきた山本の技術と、故郷への想いが込められた、美しい風景の数々をご覧ください。



左:五島百景《慈恵院の母子像(福江島)》2010年 ©山本二三

右:五島百景《奈良尾神社のアコウの樹(中通島)》2017年 ©山本二三

## ワークショップ

### 画家・石山義秀 風景を描く～トークと実技

日時 2024年1月13日（土）、14日（日）各日とも13時30分～16時30分 ※同内容を2回実施  
会場 下関市立美術館 講堂  
内容 下関在住の画家・石山義秀の画業を振り返り、山本二三展に関連して風景画の描き方をレクチャー。鉛筆デッサンにより風景画を描く。  
講師 石山義秀（画家）  
定員・対象 各日 20人（先着順）・中学生以上。  
参加費 2,000円  
応募方法 美術館ホームページ、グーグルフォームより申込み  
受付期間：2024年1月9日（火）まで。

## ギャラリートーク

日時 2024年1月7日（日）  
13時30分～（約30分）  
会場 下関市立美術館 展示室1-3（2階）  
※ 参加には、特別展の観覧券購入が必要。

## Book & Cafe in 下関市立美術館

期間 2024年1月13日（土）～1月19日（金）  
※1月15日は美術館の休館日につき、休み  
会場 下関市立美術館 喫茶室  
内容 現在喫茶店としての営業を停止している美術館の喫茶店で、期間限定のブックカフェを開催するもの。特別展「新・山本二三展」に関連が深いテーマで選定した本を並べ、来館者に余韻を味わえる場を提供する。飲み物は無料で提供し、本は希望に応じ販売する。  
※ねをはすとは  
2024年秋、新下関にオープン予定のブックホテルなどを含む複合施設。本を媒介にしたワークショップなどのイベントを実施している。  
主催 株式会社はやし住宅 ねをはす  
協力 下関市立美術館